

2017	3	15~16	採取場内にて、岩石の小割作業を行っていた際、岩石の小割を行い、次の岩石の小割作業に取り掛かったとき、先に小割をした岩石が倒れてきて、足に当たり受傷した。	33	711	5	1 ~ 9
2017	4	14~15	砕石場のプラント工場で監視作業をしている時、砕石がモーターとベルトコンベアの間挟まり、取り除こうとしたときに右腕を挟まれた。	62	224	7	1 ~ 9
2017	4	15~16	当社採石場にて、ジェットバーナーを使用して岩石の切断作業を行っていた際、割れた岩石の破片が飛んで来て顔面に当たった。	24	711	4	1 ~ 9
2017	4	14~15	道路の道路表面に敷き込んでいた原石ズリ（敷き込み厚さ4m）を回収する業務中、法肩に履帯が平行になるように停車し、ダンプトラック（CAT777）への積み込み作業を開始し、2台目のダンプトラック（CAT777）に積み込みを行うため旋回をしている途中で、バックホーが停止していた法肩が崩れ、約9m下のベンチに転落・横転した。	44	141	1	30 ~ 49
2017	4	17~18	現場休憩所横に4tユニックを停車させ、荷台上で積んでいた道具類を下ろして作業を終え、荷台から降りようとした際にバランスを崩し、うつ伏せ状態で地面へ落ちた。	62	221	1	10 ~ 29
2017	5	9~10	原石投入ホッパー内でクラッシャー内部に詰まった原石を取り除く作業中に、ホッパー内から出ようとした時に手摺りがあったが掴めず、体のバランスを崩し、ホッパー横から約3m下のコンクリートの床面に背中から墜落した。	57	162	1	1 ~ 9
2017	5	15~16	砕石場で石を切り出すため火薬で爆破の際、バックホーで作業している被災者に避難の合図をし、退避を確認後に発破に点火実施した。災害発生時は、バックホーに乗ってバケットでキャビンを守っていたが、発破時の飛び石（直径約15cm位の岩石）がバックホーのフロントガラスを突き破り、乗っていた被災者の腹部を直撃し、腹部内大量出血によりショック死した。	57	511	4	1 ~ 9

2017	6	12~13	採石場で昼の休憩時、パワーショベル（CAT3458）の操縦室に置いていた弁当を取りに行き、車体のキャタピラ（高さ110cm）に上がり操縦室に入ろうとしたところ、誤って背中から転落した。意識はあったが歩行困難な状態だったので、対岸まで運び救急車で病院に搬送した。	69	141	1	1~9
2017	7	14~15	生産稼働中の碎石プラントを巡回中に、ベルトコンベアテール部の堆積物を乗り越えようとしたところ、足が滑り、体を支えようとして、とっさに出した右手をベルトコンベアとキャリアローラーの間に巻き込まれ、罹災した。	63	224	7	10~29
2017	7	16~17	碎石場の2次の作業場でベルトコンベヤのこぼれ止め（スカートゴム）加工のため右手にカッターナイフを持って縦37cm×横145cmのゴムの真ん中に縦3cm×横12cmの穴を開ける作業中に手を滑らせて左手首切創・動脈損傷した。	52	364	8	10~29
2017	7	9~10	一般道において、給水ポンプを倉庫に返却中重機の修理を依頼していた業社が目に入り会社に戻るため迂回しようとした時、原因不明で意識が朦朧としてしまい運転操作を誤りガードレールに衝突し、左足を挟まれ右足を切り衝突の反動で押し上げてきたハンドルで顔面を打ち負傷したもの。	62	231	17	1~9
2017	7	8~9	被災者は、当日、当社採石場内においた、ベルトコンベアの修理作業中、テールプーリーのベアリングが破損し、ベアリングを交換のため受け具のボルトを切断していた処、受け具が突然右に倒れた際、被災者の右膝付近に当たり負傷したものである。	50	224	5	1~9
2017	7	16~17	土砂運搬終了後、翌日は碎石（中詰石）の運搬予定だったので、荷台に付いた土砂を取り除こうとダンプの荷台に登ろうとし、ダンプのサイドバンパー1段目に左足を掛けた時にバランスを崩して、転落し負傷した。	34	221	1	1~9
			当事業所敷地内にて、採石場で破碎機の内側上部の部品（長さ30cm、約4kg、鋳銅製）と、下部の部品（外側から）の交換作業を3				

2017	7	9~10	人で行っていた。上部の部品をバーナーで切断してネジを外そうとしたが、錆ついて外れず、ネジ内に鉄棒を入れて叩いていた。その際、落下に備え、アルミバケツを機械の隙間に軽く固定し、左手で取っ手を掴んでいたときに、突然部品が外れてアルミバケツに入った拍子に重さに耐えられず、手から滑ってしまい、アルミバケツごと落とした。それが足元（機械底から高さ50cm程）に落下した。アルミバケツから部品が飛び出し、下部の部品の交換をするためにしゃがんで作業していた被災者の右眉辺りに部品が当たり負傷した。	60	162	4	1 ~ 9
2017	7	8~9	プラントのコンクリート工場にて、竹ぼうきで掃除中、後ろから小型ユンボのバケツが背中に当たった。	58	141	6	10 ~ 29
2017	7	9~10	砕石プラントで、コンベアベルトの修理のためモーターカバーを外す作業をしていたとき、握っていた工具が滑り、モーターを置いてある台座のH鋼で右胸を強打した。	35	521	3	1 ~ 9
2017	9	16~17	当社にて、ダンプのベッセルを溶接するため脚立とハシゴを使用して高さ約2mの場所で作業中、突然ベッセルが倒れ、作業中の社員が脚立から転落する。右足首を骨折、全治2ヶ月と診断される。	35	371	1	1 ~ 9
2017	9	10~11	採石場で、運搬に使う通路を整備している時に、道路が下り坂で、路面のゆるみによりブレーキ動作でタイヤがロックをし、それに伴って車体がはずみ、オペレーターがゆすられ腰を打撲して痛めた。	56	221	6	10 ~ 29
2017	10	8~9	被災者は場内製品抜出ホッパー建屋内にて点検作業をしていた。そこに製品を抜き取り、積込をするためにダンプがバックにて進入してきた。ダンプ運転手は後方を確認しながら進入してきたが、被災者には気が付かなく、また、被災者もダンプの進入に気が付かず、後方より巻き込まれたと思われる。プラントは稼働中であり、機械音が大きい状況だった。	47	221	7	10 ~ 29
2017	10	11~	?石場内で県知事指導に基づいた樹木及びツタ類の植栽工事を行った。緑化作業後の状況を点検整備及び管理を行うため見廻っている途	45	711	2	1 ~

		12	中、会社付近で誤って転倒し頭部打撲で死亡した。					9
2017	10	7～8	砕石場にて、重機の走行用ベルトが外れていたため、修理をしていた。走行用ベルト単体でもかなりの重量があるので、別の重機のバケットの爪の部分で走行用ベルト及び作業で使用するワイヤーロープを引っかけて旋回・移動していたところ、ワイヤーロープが落ちたので、被災者が拾おうと重機に近づいてしまった。重機運転手は運転席から被災者が見えたため、旋回を止めたところ、停止する衝撃でバケットから走行用ベルトが外れ落下し、被災者の頭部を直撃した。	61	142	4		10 ～ 29
2017	10	10～11	砕石総合プラントの0～40mm製品用ベルトコンベアの積載側で被災者が先週取り替えたベルトの点検をするため1人でコンベアを稼働してアジャスターでベルトを調整して試運転した後にコンベアを稼働させたままの状態先日溶接した箇所を目視で点検しようとして回転部に近づいて巻きこまれたと思われる。同僚社員が発見した時は右腕が切断されて左腕の衣服が回転ドラムのシャフトに巻きこまれた状態で意識が無く救出後搬送された病院で死亡が確認された。	48	224	7		1 ～ 9
2017	10	16～17	一次プラントの運転を停止して、一次クラッシャーの鬼歯付近の清掃をしていたところ、プレートフィーダーにひっかかっていた石がころげ落ち足にあたり、クラッシャーの中に頭から転落した。	54	162	1		10 ～ 29
2017	11	7～8	当社砕石工場において、砕石プラントを稼働するための準備をしていたところ、ベルトコンベアに衣服が掛かり左腕が巻き込まれ、左腕を負傷した。	46	224	7		30 ～ 49
2017	11	14～15	事業所内の砕石場における、砕石プラントのベルトに絡まった泥を手作業で除去していたところ、誤ってプラントに付いている機械の尖鋭部分に手を引っ掛けてしまい、右手第一指の付け根部分を深く切った。	74	224	7		1 ～ 9
2017	11	11～12	採石場内で削孔機始動の為、削孔機へ点火していたところ、削孔機が急に倒れて来て、左足脛へ倒れ掛かり、避けきれず負傷した。	68	149	7		1 ～

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html